

## 令和2年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	少	少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	やや多
	コナジラミ類	並	やや多
トマト	黄化葉巻病	並	やや多
	灰色かび病	少	少
	コナジラミ類	並	やや多
たまねぎ	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	やや少	並
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	並	やや多
	ハダニ類	多	多

【発生予報】 本文の( )内は平年値

## きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.8%(1.4%)、発生圃場率は16.7%(22.2%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は4.0%(3.7%)、発生圃場率は41.7%(41.2%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率5.3%)。

#### 4. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

#### 5. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

#### 6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.8%（0.8%）、発生圃場率は25.0%（18.9%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P156～159の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

#### 7. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.6%（0.5%）、発生圃場率33.3%（14.9%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P156～159の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

トマト

#### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は1.3%（0.2%）、発生圃場率は16.7%（21.1%）で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

タバココナジラミの防除を徹底するとともに、ハウス内の発病株は二次伝染源となるので、見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適正に処分する。

#### 2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（12筆）の結果、果実および葉での発生は認めなかった。

（過去10か年平均 発病果率0.0%、発生圃場率0.8%、過去7か年平均発病葉率0.4%、発生圃場率14.3%）。

### 3. コナジラミ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠  
ア 1月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は1.3%（0.9%）、発生圃場率は33.3%（30.6%）で、一部多発圃場が見られた。  
イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項  
ア 本虫はウイルス病を媒介し多発すると防除が困難となるため、黄色粘着板等で発生状況を把握し、早期防除に努める。  
イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P184～187「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。  
ウ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。

## たまねぎ

### 1. 白色疫病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠  
1月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（発生株率0.0%、発生圃場率0.8%）。

### 2. ネギアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠  
ア 1月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は1.4%（10.7%）、発生圃場率は18.8%（50.3%）であった。  
イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

## いちご

### 1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠  
1月前期の巡回調査（27筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発病果率0.0%、発生圃場率2.8%）。

### 2. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠  
1月前期の巡回調査（27筆）の結果、発病果率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は11.1%（12.3%）であった。

### 3. アブラムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠  
ア 1月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は1.7%（1.3%）、発生圃場率は18.5%（14.9%）であった。  
イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項  
ア 特に花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。  
イ 薬剤の散布むらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

#### 4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は10.0%（5.9%）、発生圃場率は74.1%（41.0%）であり、依然として発生が多い状況が続いている。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

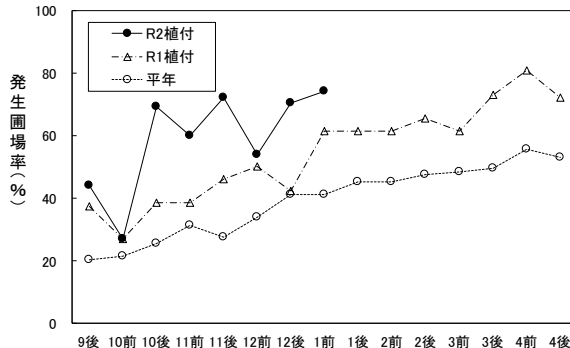


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移  
 平均：H22～R1の平均値(最大・小値除く)

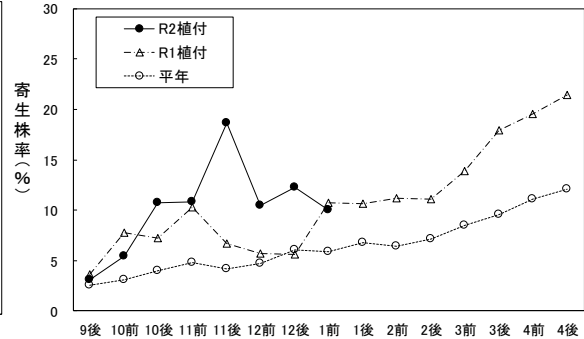


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移  
 平均：H22～R1の平均値(最大・小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を放飼する場合は、天敵に影響の少ない薬剤や気門封鎖剤を散布し、一旦ハダニ類の発生密度を低下させてから放飼する。

イ 多発圃場では、天敵に影響がある薬剤も含めて複数回散布し、ハダニ類の発生密度を下げる。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準P214～217の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤による連続散布を行う。

エ 薬剤散布に当たってはラベルを確認し、使用回数、使用基準等を遵守する。また、薬剤が巣箱にかからないように注意し、散布後はハウス内の換気を十分行うなどミツバチに影響の無いよう適切な管理に努める。

【参考】

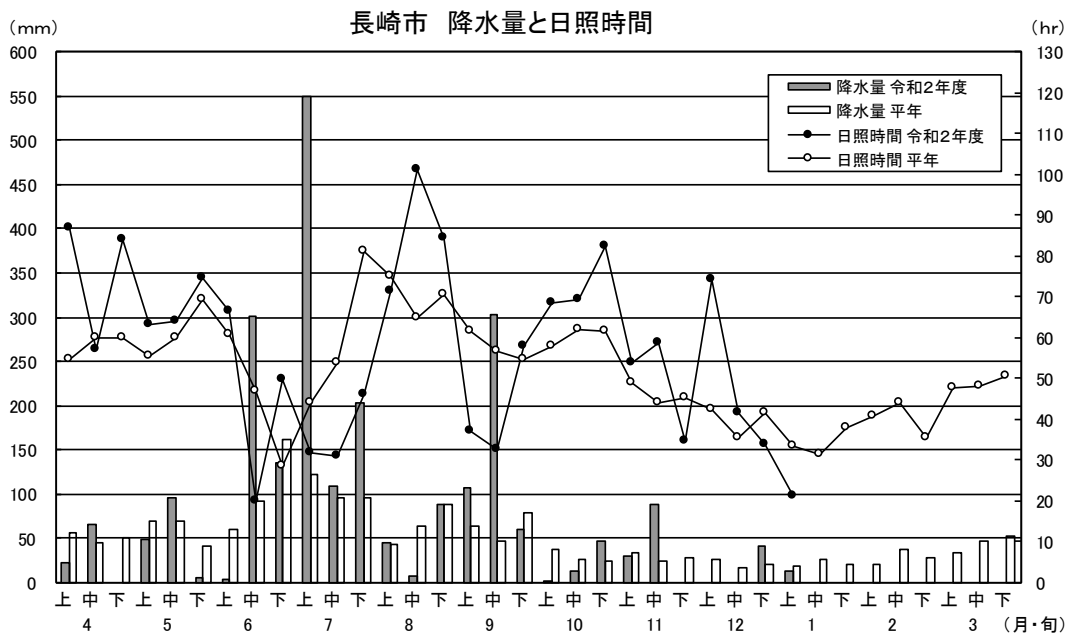
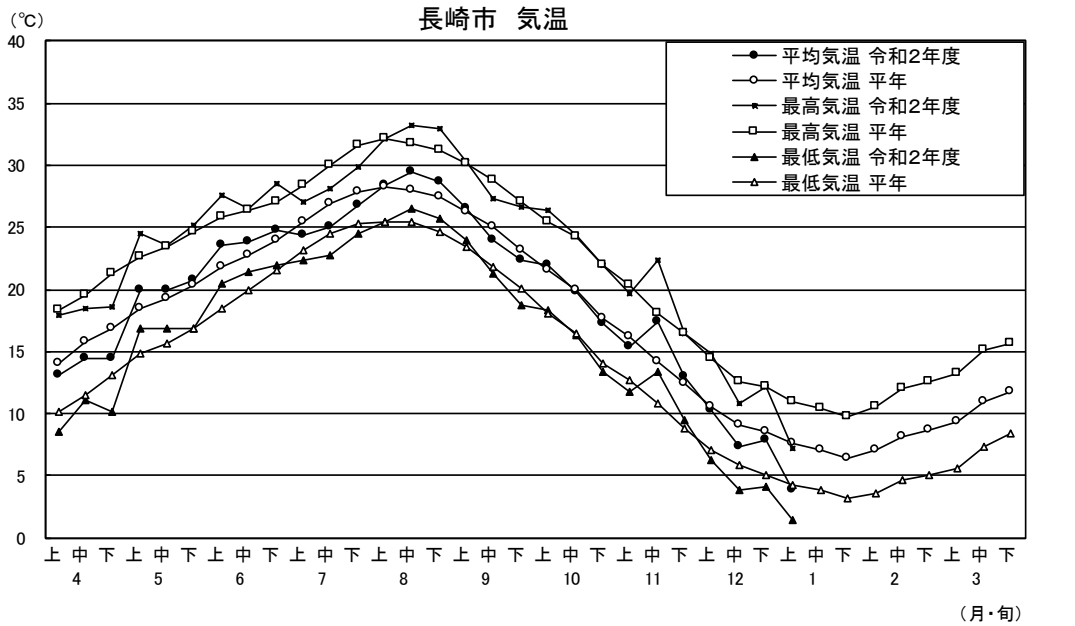
気象 (令和3年1月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

※予報対象地域：九州北部地域

令和2年度の気象経過 (長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

